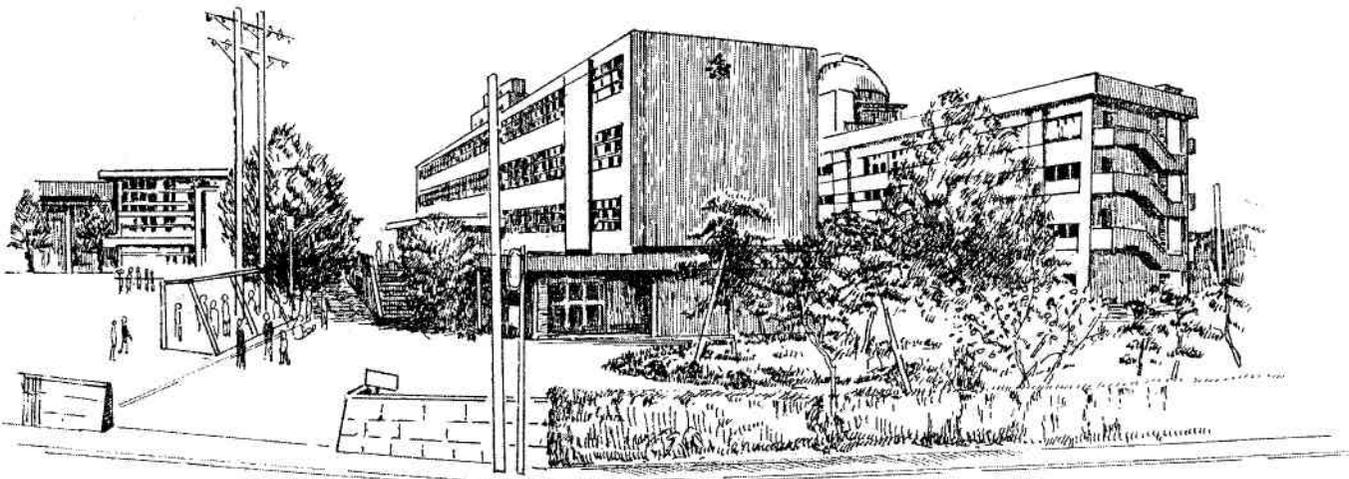




発行
千葉県立船橋高等学校同窓会

千葉県船橋市東船橋6-1-1
☎273 ☎0474-22-2188

印刷 総武印刷
千葉市新宿1-16-7
☎ 0472-42-3069



同窓会だよりの発行によせて

同窓会会長
森田 廣



県立船橋高等学校同窓会員の皆様にはますます御健勝にて御活躍の事と御喜び申し上げます。

この度会員各位の待望久しかった船高同窓会報が発刊される事になり我が同窓会の機関紙として会員相互の情報交換なり、意見発表の場として活用されるものと大いに期待して止まない次第であります。

扱て母校県立船橋高校も大正九年私立船橋中学校として開校以来私・公立中学校、高等学校と変遷を経て昭和六十五年には創立七十周年を迎えることとなります。

その間多くの卒業生を送り出し特に戦後学制改革に伴い新制高校に昇格以来年々充実発展の一途を辿り県下屈指の進学校として名声を博し会員数も百万数千名を数えそれぞれ社会に於て、御活躍されておられる事

は誠に御同慶の至りと存じます。

昭和六十年の定期総会も去る八月七日母校に於て開催されましたが来年は来るべき七十周年記念行事に向けての態勢強化と会の活動の活性化を計る目的で一部同窓会々則を改訂し支部制を導入し地域毎の活動を強化促進して本会並に母校の発展を期して改訂案を上程し満場の御賛同を得て可決承認を賜わり感謝に堪えません。

又母校におきましても七十周年記念事業の達成を期して準備委員会を編成し七十周年記念誌の発行、緑化推進(一)、正門玄関周辺(二)、中庭三、旧正門記念碑周辺)記念講演会、音楽会、同窓会名簿の整備等々具体的計画に取組んでおられるところでありませう。

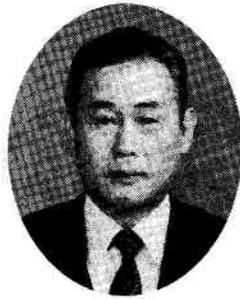
同窓会と致しましても七十周年記念事業に全面的に協力致しまして本事業を成功させるべく努力致す覚悟であります。

つきましては会員の皆様の絶大な御支援御協力を賜わります様衷心よりお願い申し上げます。

以上会報創刊に当って近況御報告を兼ねて一言御挨拶と致します。

同窓会だよりの発刊を祝う

学校長 三橋 衛



この度、関係各位の御尽力により同窓会会報が発刊されることになりましたことは、支部組織の結成と相俟って、本校同窓会の一層の発展と団結につながるものと、心からお慶び申し上げます。

船橋中学院から始まり今日まで、本校の卒業生は約一万九千名を数えるに至り、同窓の皆様が社会の各分野で大いに活躍されておられることは、私共にとっても大変心強いことであります。皆様の母校「船高」はあと二年で創立七十周年を迎えます。古来、齢七十は「古希」として祝われ、又「従心」として、一つの境地への到達の時期とされ、人生の大事な節目と考えられてきました。「船高」にとっても、この七十周年を一段の飛躍の節

目にしたいものと願っています。

今日、「船高」は、「輝く歴史に、轟くその名」という校歌の一節が誠にふさわしく、地域社会はもとより、全国的にも高い評価を得るに至っております。勿論、これは、本校の各時代を支えた職員・生徒のたゆまざる努力の賜物であります。現在の「船高」に身を置く私共は、徒に先輩の築いた名声の上にあぐらをかき、安逸に過ごすことのないよう十分自戒するとともに、輝かしい歴史と伝統を守り、更に発展させるべく努力しなければなりません。

この機会に、「船高」の現況について簡単に触れさせていただきます。本校は本年度から三十学級（普通科二十七学級、理数科三学級）となり、生徒数も約千四百名という大世帯になりました。生徒の殆どは大学進学希望で、六十三年度の大学合格状況（延人数）は、国公立約二百人、私立約七百人、その主なものは、千葉大三六、東大一六、東大一五、阪大一五、京工大一一、早稲田一四〇、理科大一四、慶



昭和59年 母校上空より北を眺める（上 JR東船橋駅）

応六九、上智四二等でありました。

一方、部活動の方は、曾て先輩達が全国大会で華やかに活躍した往時を知る人にとっては、やや淋しい感がありますが、それでも、生徒は一生懸命がんばってくれています。本年度の主な戦績は、剣道部（女子）、バレー部（男子）の関東大会出場、将棋部の全国大会出場（団体四位入賞）、個人で山田君が全国高

校将棋竜王戦に県代表として出場（四位入賞）等があります。

施設については、本校の校舎は大部分が三十九年から四十三年の頃に建てられたもので、既に二十余年を経て老朽化が進んでいます。そこで、今年、本館の大規模改修を行い、一応面目を一新することができました。引き続き来年は南館の改修を行う予定です。なお、これとは別に、本年セミナーハウス

を新築しました。本校では、これまで生徒の合宿練習や宿泊研修などに使用する施設がなく不便を感じていましたが、県教育委員会との配慮で、創立七十周年に向けての施設整備の一環として、待望のセミナーハウスを建設してもらうことができました。この施設は体育館に隣接し、三階建て、一階は玄関ホール、食堂兼研修室、調理室等、二階は和室大三室、小二室、洗面所、浴室等、三階は小体育館（ホール）となっております。今年七月に完成し、夏の合宿から使用を開始しました。なお、今年の同窓会総会（八月七日）もこのセミナーハウスを会場として開かれました。

最後に、創立七十周年記念事業についてですが、昨年十月、校内に「創立七十周年記念事業準備委員会」を設置し、記念事業の内容等について検討してきました。現段階では次のような事業を予定し、準備を進めています。

- 一、記念誌（校史）の刊行
- 二、校内緑化の推進（庭園、植樹）
- 三、記念行事の開催（講演会等）
- 四、同窓会名簿の刊行（同窓会の事業）

今後とも、同窓の皆様の一層の御支援を賜りますようお願い申し上げます。

昭和63年度 総会盛況に開催

昭和63年8月6日(第一日曜日)



昭和63年度 同窓会総会

母校の新築したばかりのセミナーハウスを使用して、昭和六十三年度総会が開かれた。例年その年の三月に卒業した同窓生にのみ、総会の通知を行っていたが、今年度は卒業して数年を経た人や、二十年、三十年といった同窓諸氏も多数出席した。又、豊田吉徳先生、鈴木平八郎先生のなつかしい姿も見られ、総会

八十人となった。来賓に大橋船橋市長、野田佳彦県議(二八回生)、田久保捷三市議(一二回生)、瀬山孝一市議(八回生)等が出席。午前十時に開会、森田会長、三橋校長の挨拶のあと、萩原副会長が議長に選任され、議事が行われた。

① 昭和六十二年事業報告
② 昭和六十二年度会計決算及び監査報告
③ 昭和六十三年度事業計画について
④ 昭和六十三年度会計予算案について
⑤ 記念事業委員会六十二年度収支報告及び六十二年予算案について
⑥ その他
イ 会則の改訂について
ロ 役員について
ハ 会長の再任

ハ 会長の再任

昭和63年度 予算案

収入の部

	本年度	前年度	増減	備考
1 会費	1,106,000	1,030,000	78,000	全466 定88
2 繰越金	313,226	175,753	137,473	
3 雑収入	3,000	10,000	△ 7,000	
4 特別会計	1,500,000	1,000	1,499,000	会報・支那総費
合計	2,924,226	1,216,753	1,707,473	

支出の部

	本年度	前年度	増減	備考	
1 会議費	総会	100,000	100,000	0	
	役員会	80,000	60,000	20,000	
	通信費	1,060,000	40,000	1,020,000	会報通信費等*
2 雑費	印刷費	260,000	20,000	240,000	会報印刷費
	消耗品費	10,000	10,000	0	
	人件費	20,000	20,000	0	
3 雑費	団体支出金	180,000	180,000	0	
	卒業記念費	120,000	100,000	20,000	
	組織企画費	380,000	80,000	300,000	支部組織費等*
4 交際費	会長	20,000	20,000	0	
	専	20,000	20,000	0	
5 旅費	5,000	5,000	0		
6 予備費	119,226	11,753	107,473		
小計	2,374,226	666,753	1,707,473		
7 雑立金(特別会計繰出)	550,000	550,000	0		
合計	2,924,226	1,216,753	1,707,473		

記念事業委員会(特別会計)報告書

昭和63年度 予算案

昭和63年 4月1日
昭和64年 3月31日

① 収入	1. 繰越金	4,255,886
	2. 繰入金	550,000
	3. 利息	45,200
	4. 各種代金	0
	5. 雑収入	0
	6.	
	7.	
合計	4,850,886	
② 支出	1. 各種制作経理費用	850,000
	2. 一般会社へ(会報発行費・支部組織費)	1,500,000
	3.	
	4. 予備費	2,500,886
合計	4,850,886	

財産目録

1	一般会計積立金	1,403,985	
2	目録差	1,500,000	マンダゴングL.G
3			
4			
	合計	2,903,985	

について
議事③昭和六十三年事業計画の中で、支部組織の結成案、会報の発行承認が小石事務局長より提案され承認された。

このふたつは同窓会として初めての試みであり、一大事業である。このために、特別会計より百五十万円を一般会計へ繰り入れることが総会に於て認められた。

会報が発行され、支部組織がそれぞれ誕生すれば県立船橋高同窓会は更に発展するものと、多くの人たちから期待が寄せられている。

同窓会支部組織結成案 総会において承認

支部組織は原則として、市町村ごとに在任会員で組織し、支部長、副支部長を置き、支部長は常任理事、副支部長は理事とし、細則は別に定める。

◇地区割りについて◇

- 市川・浦安地区
- 鎌ヶ谷・松戸・柏地区
- 船橋中央地区(宮本・本町・湊町・南本町・海神・夏見・旧市街地等)
- 船橋東地区(二宮・豊富地区・高根・習志野公園・三咲等)
- 船橋西地区(葛飾「行田・法典・藤原・馬込・丸山・西船」本中山等)
- 習志野地区
- 八千代・佐倉・印旛地区
- 千葉・四街道地区
- 東京・関東地区
- その他

以上の地区外でも支部結成可能な地区より設置する。

70周年記念事業にとりくむ

大正九年に呱呱の声をあげた母校は、再来年の昭和六十五年に、創立七十周年を迎えることになりました。人の一生でいえばまさに古希ということになりましたが、学校の規模も全学年十クラス編成(普通科九、理数科二)となり、ますます隆盛の一途を辿っていること、ご同慶の至りです。

この七十周年を機に記念事業を計画する運びとなり、昨秋校内に「千葉県立船橋高等学校創立七十周年記念事業準備委員会」が正式に設けられ活動を始めました。全日制植田明磨教頭を長とし、全日制十四名、定時制二名計十六名で構成されています。記念事業の具体案については、校内アンケートの集約にはじまり、同窓会・PTAの意向も伺いながら、数回の会議を重ねて、次の三つの柱が決定されました。

(1) 校内緑化の推進

去る昭和五十五年の創立六十周年記念事業と関連して、緑化委員会が母体となり、具体的に検討することになります。より風格のある環境づくりを目指し

て、正門周辺、中庭の整備を中心に案が練られつつあるところ

(2) 記念誌の発行

本年二月に「創立七十周年記念誌編集委員会」が設置されました。小川信雄教諭(社会科、三十八年卒)が責任者となり、全日制八名、定時制一名計九名から成ります。すでに計画概要、内容等について話し合いが行われ、編集の基本方針は決定しております。今後細部については検討が重ねられますが、「校史」の性格を帯びる公算が大です。

(3) 同窓会名簿の刊行

これは学校とは直接関係をもたず、主に同窓会の記念事業となりますが、昭和五十八年に発行された、故平岡良文理事(二二年卒)のご尽力の結晶ともいえる同窓会名簿をもとにして、その改定版という形で刊行される予定です。(なお、五十八年発行の名簿を希望される方は事務局までご連絡下さい。残部が多少ございます。)

以上が記念事業のいわゆる三

本柱となりますが、当該年度の年間行事計画の中に、創立七十周年にふさわしい行事をいくつか組入れることについて研究をすすめていくことになっていきます。同窓生による講演会・演奏会の開催、さらには作品の展示等、数案が出されていますが、未だ白紙の状態に近いというのが実情です。

さて、以上の事業計画を推進していくには、予算の裏づけが不可欠であることは申し上げるまでもありません。その捻出につきましても、正直のところ苦慮しておりますが、幸い同窓会から、募金活動を通して全面的に協力する旨のありがたい申し出をいただいております。支部組織等を通じて、諸兄弟にもその呼びかけがあらうかと存じますが、その折はよろしくご協力下さいますようお願いいたします。

本年度PTA総会におきましても、創立七十周年記念事業積立金が承認されご賛助いただけることになっております。近い機会に学校、同窓会、PTAにより「創立七十周年記念事業実行委員会」(仮称)が組織され、事業のいっそうの推進にあたることになりそうです。記念事業といえど、無理のない範囲で行われるべきは当然のことです、学校の一つの節目として、

願わくば校史に残る事業になり得ればというのが本音です。

この機会に、卒業生で母校に職を奉ずるいわゆる同窓職員をご紹介します。 () 内は卒業年と担当科目です。
小川信雄(38年社会)・増田能郎(32年社会)・油井邦夫(42年理科)・堀木伸介(旧姓小高・48年理科)・丸石照機(37年理科)・鈴木一郎(48年理科)・長谷川政雄(50年理科)・岡田一彦(41年保体)・坂田武総(35年芸術)・石田明也(22年

英語)

以上十名です。記念事業のことに限らず、日頃お考えのこと、お問合せ等どんなことでも結構ですので、お気づきの点あれば遠慮なくご連絡下さい。私ども、母校の発展のため微力をつくしていく所存ですが、あわせていささかなりと同窓諸兄弟のお役に立てれば幸いです。
どうぞよろしくご指導、ご鞭撻下さいますようお願いいたします。
(県立船高総務部 石田記)

それぞれの地区に支部組織を

結成しよう!

支部組織を結成しようという動きは萩原副会長を中心に数年前から話されて来た。県下の歴史のある高校では、ほとんどが支部組織を持つており、支部組織の活動が母校同窓会を支えている。県立船高同窓会としては、誠に遅い動きではあるが、現在、十分に支部組織を結成できるだけの力は蓄えられていると思う。それぞれの地区で支部が結成されることを願っている。

◎習志野地区 初の支部結成にむけて準備会

JR津田沼南口「文弥」で初会合。三代川常任理事の呼びかけに応じ十五名出席。事務局より小石事務局長が出席し主旨の説明を行い、参加者全員が今後協力して立派な支部を結成することを約束した。



母校への援助状況

同窓会

重宝しているワゴン車

昭和五十九年に母校の要望に答えて、同窓会では自動車一台を寄贈、それまでは部活動や各行事等での荷物の運搬には、先生方の車をお願いしたり、外部から借りてきたりしていた。自動車使用規定に基づき、安全運転を第一に大いに活用されている。



マツダボンゴLG

セミナーハウスにクーラー

昭和六十三年七月、県下でも最大のセミナーハウスが完成した。一階が食堂、二階合宿部屋、風呂等、三階トレーニング場と

なっている。一階食堂にクーラーを寄贈しようということになり、同窓会では七十周年記念事業の寄付金の一部をそれにあてる予定であるが、クーラーはすでに設置されている。同窓会諸氏のご協力をお願いしたい。



旧正門跡よりセミナーハウスを眺める

野球部へピッチングマシンを寄贈

母校から一度は甲子園へと願うのは、我々同窓生共通の思いである。野球部練習風景を見た理事が設備の貧弱さに、せめて

同期会・クラス会

だより

◆昭和38年卒業同期会

4月17日市川グランドホテルにて。百六十名出席。名称「サンパチ会」。毎月一回食事をする十名程の仲間。毎年十二月第一土曜日に集まってくる。

◆昭和35年卒業同期会

5月3日ホテルサンガーデン、出席者百三十名ほど。三橋衛先生(現校長)始め六名の先生が出席。オリンピックの年に開催。

蔵書寄贈

- 森田義一氏(高校16回卒業) 蔵書百七十冊を図書館へ寄贈。
 - 日本古典文学全集五一卷(小学館)
 - 漱石全集一七巻(山岩波)
 - 日本の歴史二三巻(岩波)
 - 新田次郎全集二巻(新潮社)
 - 昭和の歴史一〇巻(小学館)
- その他船橋高生徒に役立つ貴重本ばかりである。

隅田孝志氏(高校14回卒業)

蔵書「世界の大思想」(河出書房) 他五十冊程寄贈

三十名の仲間「ひねもす会」が母体となり、五年に一度同期会を行っている。今回は二回目。

◆昭和48年卒業定時制同期会

6月26日北習志野「太郎」同窓生増田(旧姓近藤)さんの店。

◆昭和41年卒業同期会

11月27日 母校セミナーハウスを会場に行った。参加者百名

◆昭和62年卒業F組クラス会

8月18日船高「ようらく」にて約三十名程出席。

◆旧師を囲む会

「山中肇先生、新妻三郎先生を囲む会」

本校が市立船橋中学校(旧制)であった当時の校長、教頭であった両先生を囲む会が五月十五日(日)に開かれた。発起人は斉藤、稲田、伊藤の三先生。参加は当時の教え子も含めて二十七名。四十数年ぶりの再会という方々もあって、会場(学校)は、茫然、唖然、感激、爆笑……文字通り時の経つのを忘れるすばらしい会であった。山中先生には八十九才になられてなお矍鑠としておられ、感無量。

同期生などで林徹遺作展

(昭和29年卒)

今年八月四日から九日まで柏市民サロンにて林徹遺作展が、県船同期生たちの手で開かれた。また、小冊子「放浪する哲学者」を林徹をしのぶ会が制作、船高をこよなく愛した故人のありし日の姿が描かれている。

◆同期会、クラス会あるいは企業・職場の中にある県立船橋高校同窓会等やユニークな仲間の集まりなど一報をお待ちしている。

千葉県立船橋高等学校同窓会会則

総 則

第1条 本会は千葉県立船橋高等学校同窓会と称し、事務局を千葉県立船橋高等学校内におく。

第2条 本会は会員相互の親睦を深め、併せて母校の発展と充実に寄与することを目的とする。

第3条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 会報・同窓会名簿等の発行
- (2) 母校生徒の諸活動の援助
- (3) 母校の教育環境整備・充実の援助
- (4) その他本会の目的を達成するために必要な事業

第4条 本会は次の会員によって組織する。

1. 正会員

- (1) 船橋中学校卒業生
- (2) 私立船橋中学校卒業生
- (3) 市立船橋中学校卒業生
- (4) 千葉県立船橋中学校卒業生
- (5) 千葉県立船橋高等学校併設中学校卒業生
- (6) 千葉県立船橋高等学校卒業生
- (7) 前6項の中途退学者で入会を希望し、会長がこれを認めた者

2. 名誉会員

- (1) 母校現教職員および旧教職員
- (2) 特に母校に功労があり、理事会の承認を得た者

役 員

第5条 本会に次の役員をおく。

- (1) 会長 1名
- (2) 名誉会長 1名（母校校長を推挙する）
- (3) 副会長 若干名（うち1名は母校教職員より推薦する）
- (4) 専務理事 1名
- (5) 常任理事 若干名
- (6) 理事 若干名
- (7) 事務局長 1名
- (8) 事務局次長 若干名
- (9) 会計 2名
- (10) 会計監査 2名
- (11) 幹事 各クラス2名

第6条 役員（名誉会長および幹事を除く）の任期は3年とする。た

だし、再任を妨げない。

第7条 役員の任務は次の通りとする。

- (1) 会長は、本会を代表し、会務の統括、総会および理事会の招集、会計監査を除くすべての役員の委嘱を行う。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
- (3) 専務理事・常任理事は必要に応じて会長の諮問にこたえる。
- (4) 理事は理事会の運営に参画し、会務の審議にあたる。
- (5) 事務局長は事務局を構成し、その運営にあたる。
- (6) 事務局次長は事務局長を補佐し、事務局長に事故ある場合はその職務を代行する。
- (7) 会計は会計事務をつかさどり、総会において会計報告をする。
- (8) 会計監査は会計を監査し、総会にその結果を報告する。
- (9) 幹事は理事に協力し、会員との連絡にあたる。

第8条 役員は次の方法により選出する。

- (1) 会長、副会長、および会計監査は、理事会において会員の中から選出し、総会の承認を受ける。
- (2) 専務理事・常任理事・理事・事務局長・事務局次長および会計は会長が委嘱する。
- (3) 母校卒業の現教職員および現教頭は理事とする。
- (4) 幹事の任期は本人の申し出により終了するが、その場合、必ず次期幹事を推薦し、本人の了解をとる。

第9条 本会に顧問をおき、会長が必要と認めたものを理事会に諮って推挙する。

機関および会議

第10条 本会に次の機関をおく。

- (1) 総会
- (2) 理事会
- (3) 事務局

(4) 支部組織

第11条 総会は、本会の最高議決機関で、年1回（8月第1日曜日午前10時）会議を開く。ただし、会長が必要と認めたときは臨時に開くことができる。

第12条 総会の決議は出席会員の過半数の賛成をもって成立する。

第13条 総会は、会長が招集し、次の事項を行う。

- (1) 事業報告および決算の承認
- (2) 事業計画および予算の決定
- (3) 役員を選出・承認
- (4) 会則の改正
- (5) 理事会から提出された案件の審議・決定。
- (6) その他必要な事項

第14条 理事会は、会長・副会長・専務理事・常任理事・理事および事務局をもって構成し、次のことを行う。

- (1) 事業の企画
- (2) 決算書・予算書の作成
- (3) 役員推薦等にかかわる作業
- (4) 会長の諮問事項の検討
- (5) 事務局から提出された案件の処理

第15条 事務局は事務局長・事務局次長・会計からなり、すべての庶務・会計を行い、会務の運営を行う。

第16条 支部組織は原則として、市町村ごとに在任会員で組織し、支部長・副支部長を置き、支部長は常任理事、副支部長は理事とし、細則は別に定める。

会 計

第17条 本会の経費は、会費および寄付金その他の収入をもって充てる。

第18条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

付 則

第19条 本会の会費は終身会費とし、2,000円を納入するものとする。

第20条 本会の会則は総会の決議により改正することができる。

第21条 本会の会則は昭和63年8月7日より効力を生ずる。

沿革

I 私立学校

大正7年 7月、賀川宣勝（教育家）により東華学校として発足。「東」は郡名の東葛飾に由来するという。船橋大神宮（意富比<おおひ>神社）東隣の庄左衛門宅別棟を教室とする。

大正9年 4月、千葉健吉（神官）東華学校を引き継ぎ、船橋中学院と改称。やがて教室を大神宮客殿に移す。本科修業年限3年、入学者5名。

大正13年 7月、現在地（当時、船橋町五日市台宿）に移転。校地2,000坪、校舎（総2階、階上3教室）新築。

昭和4年 3月、中学校令による学校として認可され、4月、財団法人船橋中学校となる。斎藤林平（弁護士）校長となり、千葉健吉は理事長となる。校舎（総2階、階上5教室）新築。生徒数70名、4学級。

昭和7年 9月、五弓安二郎（漢学者）校長となる。

昭和10年 この年、生徒121名、5学級。

II 公立中学校

昭和15年 4月、船橋市立船橋中学校となる。学年編成2学級100名。5年制。

私立時代入学の生徒は、相当学年に編入。

5月15日、開校記念式典举行、以後この日を創立記念日とする。

昭和17年 3学級150名編成となる。

昭和18年 夜間部（2部）設置、1学級50名。3年制。

昭和19年 県に移管、千葉県立船橋中学校となる。

昭和20年 3月、戦時措置方策により、5年生・4年生同時に卒業。

4月、4学級200名編成となる。

昭和22年 新制中学校発足のため、生徒募集停止。2・3年により、「併設中学校」編成。

III 高等学校

昭和23年 4学、学制改革により千葉県立船橋高等学校として再発足。旧制中学校在籍生徒の大半は相当学年に移籍。

昭和24年 女生徒初入学。

昭和25年 4月、市町村組合立習志野農業高等学校を併合して習志野校舎と称し、農業科

を置く。

通常の課程普通科960名、定時制の課程普通科320名、通常の課程農業科240名。

昭和29年 10月、プール竣工
昭和32年 普通科1,200名、定時制600名、農業科150名。

昭和36年 習志野校舎新築移転、園芸科に改組。

昭和38年 4月、習志野校舎、新設の薬園台高等学校に併合される。

昭和39年 10月、本館（西半分）第1期工事竣工。

昭和41年 8月、本館第2期工事竣工。

昭和43年 8月、南館竣工。

昭和44年 4月、理数科設置、1学級40名編成。11月、体育館竣工。

昭和45年 10月、武道館竣工。教室増築。11月創立50周年新築校舎落成記念式典举行。

昭和46年 3月、プール敷地買収。

昭和50年 以後3年間、学校群総合選抜制実施。

昭和58年 2月、船橋市所有の学校敷地（12,818㎡）県に移管。

昭和61年 3月、第2特別教室棟増築。

昭和61年 4月、普通科1学級増。

昭和63年 6月、セミナーハウス増築。

- 全日制**
- ◆将棋部 団体 県大会優勝・全国大会団体四位入賞
個人戦で山田敦幹、全国高校将棋竜王戦に県代表出場四位入賞
 - ◆囲碁部 女子個人 袴真理子、全国大会出場
 - ◆剣道部 女子関東大会出場
 - ◆バレー部 男子関東大会出場
 - ◆合唱部 全日本合唱コンクール千葉県大会エース（銀賞）
朝日新聞（銀賞）
 - ◆バスケット部 男子 優勝
- 女子 準備優勝**
- ◆バレー部 男子 優勝
 - ◆陸上部 男子 総合二位
女子 総合三位
 - ◆四〇〇日 男子 優勝
 - ◆走幅跳女子 吉川敬子 優勝
 - ◆剣道部 女子個人 藤原直子 優勝
- [定時制全国大会]**
- ◆剣道 個人女子 藤原直子 八位
 - ◆バレー部 男子 ベスト16
 - ◆陸上部 砲丸投 男子 岩井武志 五位
 - ◆走幅跳女子 吉川敬子 10位
 - ◆合唱部 優勝
- [千葉県定通総合文化大会]**

昭和63年度部活動情况

■ 卒業生数 〈全日制〉

区 分	期 間(卒業年度)	卒業生数	
中 学 院	大正9～昭和6	48	
私 立 中 学 校	昭和7～昭和14	142	
市 立 中 学 校	昭和15～昭和18	113	
県 立 中 学 校	昭和19～昭和23	423	
(" 併設中学校)	(昭和22～昭和23)	(* 459)	
県 立 高 等 学 校	普通科	昭和23～	14,159
	理数科	昭和46～	689
	農業科	昭和25～昭和37	379
計		15,953	

〈定時制〉

区 分	期 間(卒業年度)	男	女	計
市 立 中 学	昭和18			
県 立 中 学	昭和19～昭和22	31	0	31
県立高等学校	昭和23～	1915	1306	3221
計		1946	1306	3252

新しい同窓会役員決る

昭和六三年八月七日

会則の改正にとまない昭和63年度役員を次のように定める。

会長	森田 廣	専務理事(事務局長)	小石 税	常任理事	三代川 徳三郎	副会長	佐藤 昭	事務局長	田久保 捷三	會計監査	片岡 嘉秀
副会長	三橋 衛	理事	夏加 秀之助	理事	植草 栄一	理事	萩原 和	理事	河村 信吾	會計	坂田 友夫
理事	藤原 昭	理事	中沢 袈裟一	理事	三代川 光雄	理事	佐藤 一生	理事	興松 昌澄		坂田 武夫
理事	藤原 昭	理事	夏加 秀之助	理事	植草 栄一	理事	佐藤 一生	理事	興松 昌澄		坂田 武夫

同窓会名簿作成のために **ただ今 調査中!**
あなたの情報をお待ちしています。

名簿予約注文受付中!

県立船橋高校の同窓会を活性化させ、あなたの交流を広げるためのバイブルとして、お手元には是非一冊おそなえ下さい。

頒価 4,000円 送料 700円

協賛広告募集!!

創立70周年の記念事業の協賛として、広くみなさまからの賛助広告を募集いたします。企業PRに、求人募集に、また、あなたの名刺として有効にスペースをご利用下さい。デザインその他ご相談に応じます。詳しくは下記迄ご連絡下さい。

同窓会名簿編集事務局
東日本出版株式会社(委託)

千葉市新宿1-16-7 (安田ビル) ☎0472-42-3057

「あの懐しい人は今どこに…」誰もが思うことではないでしょうか。

昭和65年の母校創立70周年を前にしてのこの度の同窓会名簿づくりはチョット違います。『眠れる獅子』県立船橋高校同窓会が、ながい眠から今やっと目をさました。支部づくり、本格的な名簿づくり…。これまでにない同窓会活動を目指して、今動き出しました。

19,000人の県船同窓会員のみなさんが自慢できる同窓会をつくるために、ぜひあなたの情報をおよせ下さい。

尚、不明者リストを2月、4月、6月の時点で作成いたします。ご希望の方はお申しつけ下さい。

新春名刺交換会

一九八九年二月十一日(土曜日午後三時より)船橋ららぽーとホテルサンガーデンにて、県立船橋高校同窓会新春名刺交換会を予定しております。

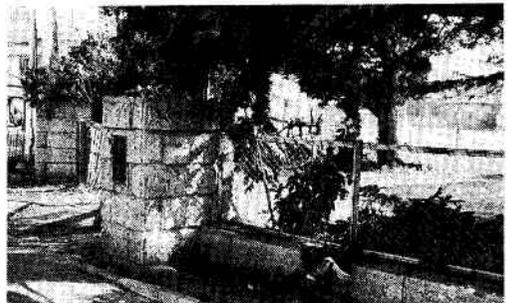
会社等で取り引きをしていて、何かのきっかけで船高同窓生であったことがわかり、仕事が一層やり易くなった。という話が時折に聞かれます。名刺交換会のようなことを同窓会事務局で計画してもらいたいという声に、始めて試みることにしました。是非沢山の方々に参加していただきたいと思っております。

七十周年記念誌
編纂にご協力を

現在母校に残存する資料が乏しく、編纂にあたって支障を来しております。母校に関する資料、たとえば古い写真、船高新聞、印刷物、研究資料などお持ちの方、記念誌編集係小川教諭までご連絡下さるようお願いいたします。

連絡先

〇四七四・二二・二一八八
千葉県立船橋高等学校内



旧正門

あとがき

初めて同窓会だよりをお送りします。毎年、様々な方々から、会報の発行はないのかという問合せが来ます。現在母校の卒業生は一万九千名を上廻っております。県下では有数の大規模同窓会組織です。これだけの同窓会を動かすには、大変な労力を要します。しかし、「同窓会だより」がお互いに同窓生としての絆を結びつけるきっかけになってもらえれば苦勞の甲斐があります。今後出来るだけ多く「同窓会だより」を皆様にお送りしたいと思っております。色々ご意見やお便りを事務局までお寄せ下さい。